

「意味順」など紹介

キョクトウ・アソシエイツ
ニューエデュケーションに出展

教育関係者等にアピール

教育関係者向けセミナー&展示会として十七回目を数え、セミナーと展示会場で構成、展示会場では百社を超え、企業や団体が出展。それぞれ最新の教材教具やICT機器（コンピュータやプロジェクタ、電子情報ボードなど）、学校や教育機関で役立つ製品・サービス・システムなどを展示した。

展示会の教材・教具&理化学機器コーナーには、株式会社キョクトウ・アソシエイツ（ウイ・キム・ホック社長、大阪市）が出展し、ブースでは「意味順シリーズ」「家庭学習ノート」「かんがえる学習帳」などを紹介した。

同社では、教育現場でもIT化やデジタル化が進んでいるが、これらに抵抗がある先

生も少なくないことから、書くことの必要性をアピールした。特に英語を担当する先生に意味順シリーズや家庭学習シリーズの特徴などを直接説明できたことは今後の展開に大きなプラスになったと

いう。会場には意味順ノートを監修した京都大学の田地野彰教授も来場し、教育関係者の意

見や反響を見守っていた。二十三日の午後十二時半から会場でミニセミナーを行い、同社商品本部企画開発部の川口尚子さんが、英語の「意味順シリーズ」について、通常の英語ノートは単語の置き換えだけだが、意味順ノートと意味順マグネットには意味順ガイドがついているので、書く順番に沿って記入してい

ければ無理なく英語が分かる。二〇一二年度の新学期には百六十校以上が導入し、述べ六十万冊を販売、九五%が英文を作りやすくなったと回答した。

また、家庭学習ノートは、家庭学習が盛んな秋田県の事例を取り上げ、秋田県は全国学力テスト四年連続一位を獲得したが、その秘密は専用ノートを用いて家庭学習を行っていることが要因とし、秋田県の子供千人に聞いた家庭学習のコツなどを話した。

なお、この催しは六月七〜九日に東京ファッションタウンビル西館二階TFTホールでも開催した。

キョクトウ・アソシエイツのブースとセミナーの様相

